



体育学習の中で個のよさをさがし、認め、力づけることは確実に「生きる力」を育みます。

課題に対する理解をほめる

今、自分ができていることをきちんと知っていることをほめる

この時間に一番大切にしなければいけないことがわかっていることをほめる

課題に対して何ができて何ができないのか話すことができていないことをほめる

友だちの動きを課題に照らして分析的に話すことができていないことをほめる

課題に対する動きをほめる

課題に即して動きの中核となる技能に迫っている。迫ろうとしていることをほめる

中核技能に必要な基礎の動きや行動をきちんとしていることをほめる

達成（克服）寸前の子どもに冷静に技能ポイント（コツ）をささやく

できた直後には、喜んでほめたりしない。「もう一回」と試技を促す。確実にできるようになったら思いっきりほめる

学習への臨み方をほめる

着替え、移動、時間にくる、聴く態度など基本的学習姿勢の良さは一学期は毎回ほめる

教師や友だちに関わろうとする協調的・共同的態度をほめる

準備や後片付けを率先して行ったり、場に危険がないか常に見ていたりすることをほめる

学習中の係や役割分担をきちんとやっていることをほめる

わかって



できて



そだつ



「生きる力」を育む体育指導



## 補助の極意は「どこを」「いつ」

### ■ ピンポイント

#### 跳び箱運動（開脚跳び）



教師の一手が子どもの動きに最も効果的に作用する部位はどこか

手の突っ張りが長すぎると突き放せず、跳び箱に座ってしまう。

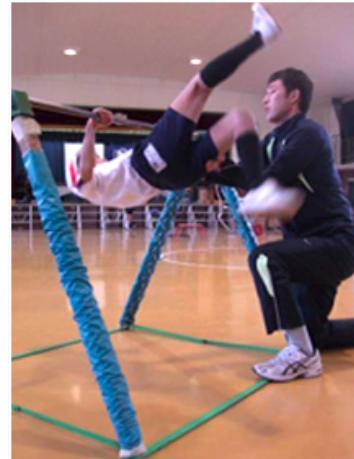
→ 肘の部分より上腕にかけてを補助します。

手の突っ張りを取り除いた直後に前上方にエネルギーを与えます。

→ 腰とおしりを前上方に浮かせるように補助します。

### ■ ジャストタイミング

#### 鉄棒運動（逆上がり）



教師の一手が動きに勢をつける瞬間、それは動きがプラス方向に働いている時

補助は必ず運動エネルギーがプラス方向に働いている時に行います。

しかも一瞬に力を与えます。長く支持しすぎではいけません。

マイナス方向（補助タイミングの遅れ）での支持は、役立たずです。無様で子どもの心も傷つきます。



## うまくいかない授業には理由がある

- 自分や友だちにけがや事故が予見される動きや行動は即刻やめさせましょう

子どもはまじめで一生懸命でも危ない動きはだめです



開脚跳びで「下を見る」と体が回転して顔から落下することがあります。いくら能力の高い子でも即刻その動きはやめさせます。

- 学習の場に「寝る」「横切る」ことは即刻やめさせます

うまくいかなかったときの照れ隠しで大の字になったり、何気なく場を横切ったりする行為は大事故のもとです。

- ふざけ、いたずらなどの不誠実な行為は即刻やめさせます

しかし、多くの場合、その子にしかわからない理由が潜んでいます。

- よく見られるケースから対処を考えます

みんなが真剣なのに  
ふざけやいたずらをして学習の邪魔をする

どの授業でもそうした行動をとるのなら粘り強く接するしかないのですが、体育の時だけ跳んでもない行動をして学習の邪魔をする子どもは、高い確率で「とても怖い経験をしたり」「事故にあったり」している過去があります。

- 水泳で着替えを拒む、絶対に目を開けない

- ・ おぼれた経験がある。
- ・ 幼少期に風呂で急に湯をかけられた。

- 鉄棒や跳び箱に近づかない、友達にいやなことを繰り返す

- ・ 落下事故
  - ・ 骨折経験
- カウンセリング → 補助

- 意味もなくフラフラしている、おしゃべりに夢中である

- ・ 今日の問題への理解度が極端に低い → 優しく目標と手順を説明
  - ・ 学習の場が豊かでなく運動に取り組む時間が短い → 班に一枚のマットだけではいけません。場を増やすことが必要です。
- 試技をしないときもきちんと役割を持たせます。